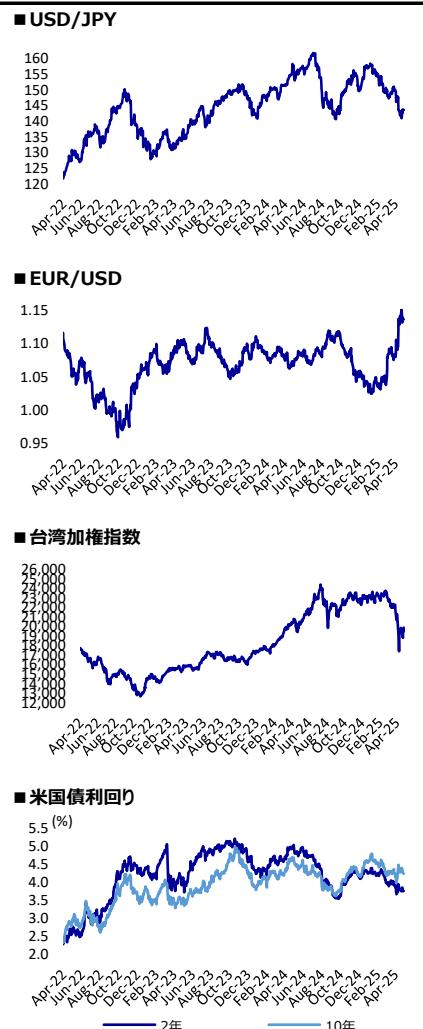
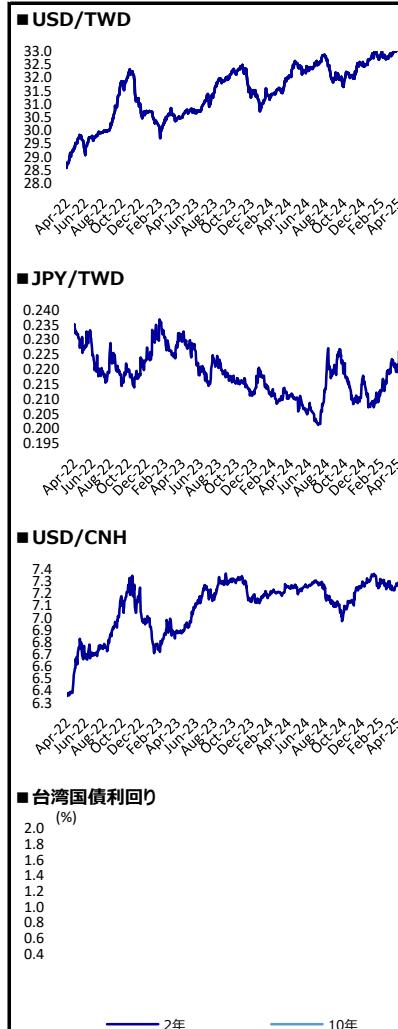


市場動向



先週の市場動向

■ USD/TWD

先週のドル/台湾ドルは下落。週初4/21は32.580でオープン後、関税交渉やFRBの独立性に対する不透明感から、海外市場におけるドル安が一段と進む中、ドル売り優勢の展開。4/22は、トランプ大統領によるパウエル議長批判が止まらない中、海外市場ではドル売り優勢の展開だが、台湾当局のポジション調整で台湾ドルの上昇幅は限定的に留まった。4/23、パウエル議長解任リスクの低下や対中貿易交渉姿勢の軟化を受け、海外市場のドル高につられ、ドルは一時32.545まで上昇。4/24は、特段新しい材料がない中、海外市場のドル高につられ、台湾ドルもやや上値重い展開。4/25は、輸出企業による月末のドル売りや台湾株の上昇を受け、台湾ドルは一時32.471まで上昇したが、台湾当局による調整でドルの下落は限定的に留まった。最終的には前週比0.25%ドル安台湾ドル高の32.526で先週の取引を終了。週間の外国人投資家の株式買い越し額は275.4億台湾ドル。

■ USD/JPY

先週のドル/円は上昇。週初4/21は142.10でオープン後、トランプ米大統領がパウエルFRB議長に利下げを求めてことで、FRBの独立性に関する懸念が高まり、ドル円は引き続き低水準で推移。4/22は、FRBパウエル議長の解任懸念でリスクオフの円買いが進み、一時140円を割り込んだものの、欧米時間では徐々に141円台後半まで買い戻された後、トランプ米大統領のFRB議長解任否定発言で一時143円前後まで上昇。4/23は、トランプ大統領のFRB議長解任否定発言を受けて一時143円前後まで上昇した後、141円台後半までに反落。欧米時間では、ベッセント米財務長官が日本との通商交渉において特定の為替水準を念頭に置いていないと明言したこと、ドルは143円台半ばに上昇。4/24は、加藤財務相とベッセント米財務長官の会談で為替レートは市場において決定されることを再確認した上で、米国の強い円高圧力は回避された模様で、ドルの下値をサポート。4/25は、中国が米国からの一部輸入品を高関税の対象から除外するとの報道が流れ、円売り優勢の展開となり、ドルは一時144円近辺まで上昇。最終的には前週比1.06%ドル高円安の143.73で先週の取引を終了。

今週の見通し

■ USD/TWD 予想レンジ: 32.350-32.650

今週のドル/台湾ドルはレンジ推移を見込む。海外市場におけるドル安が一服したもの、台湾株が上昇に転じる中、揉み合いの推移となるだろう。

■ USD/JPY 予想レンジ: 142.00-147.00

今週のドル/円は揉み合い推移を見込む。日銀の金融政策決定会合など重要イベントを控える中、レンジ推移が続いているようだ。

今週の予定

4/28 (MON)	カナダ総選挙実施
4/29 (TUE)	東京市場休場、米3月JOLTS求人件数
4/30 (WED)	米4月ADP雇用統計、米3月個人所得・個人支出・デフレーター、台湾Q1GDP
5/1 (THU)	日銀金融政策決定会合、米4月ISM製造業景況指数、台湾市場休場
5/2 (FRI)	米4月雇用統計、米3月製造業受注

(Source) Thomson Reuters, Mizuho Bank

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。当資料に記載された内容は、事前連絡なしに変更されることがあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願いいたします。当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず、無断で引用、複製することを禁じます。